

成果の説明書

(氏名) 田戸岡 好香	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>○教育</p> <p>「社会心理学」, 「社会調査 (量的調査)」, 「社会調査演習」, 「基礎演習」, 「演習 I」, 「演習 II」といった授業を担当した。演習 II は 10 名のゼミ生の卒業研究を指導した。授業外の活動として, 夏季に地域づくり学科の 5 ゼミ合同で卒業研究中間発表会を行い, 他ゼミの教員および学生と交流をした。また, 軽井沢のトリックアート美術館において認知心理学の知見を体験するフィールドワークを行った。</p> <p>○研究活動</p> <p>科学研究費補助金 (若手) を受けて, 『在留外国人への援助政策の賛意を促進するには: ステレオタイプの内容に注目して』という研究課題の下, オンラインでの調査および実験による研究を行った。また, 共同研究では, コロナ禍における人の心理・行動に関する研究を行った。具体的な成果は以下のとおりである。</p> <p>【著書・翻訳】</p> <p>田戸岡好香 (2022) 第 7 章「貧しいけれど幸せ」: 相補的ステレオタイプのシステムを正当化する可能性 『システム正当化理論』 ジョン・T・ジョスト (著) 北村英哉・池上知子・沼崎誠 (監訳) ちとせプレス pp. 177-203.</p> <p>【学術論文】</p> <p>田戸岡好香・石井国雄・樋口収 (in press). 新型コロナワクチンの接種が在留外国人に対する態度に及ぼす影響: 行動免疫システムの観点から 実験社会心理学研究</p> <p>【学会発表】</p> <p>田戸岡好香 (2022). 外国人労働者の打たれ強さに関する認知バイアスの検討 日本社会心理学会第 63 回大会発表論文集, 107. (@京都橘大学 演題番号 P1119, 2022.09.14)</p> <p>田戸岡好香 (2022). 貧しい人は打たれ強く見えるのか? 社会経済的地位が打たれ強さの認知に及ぼす影響 日本心理学会第 86 回大会発表 (@日本大学, 2022.09.09, 2PM-011-PC, web プログラムのため, 頁番号なし)</p> <p>上記に加えて, 外国人差別解消のための研究および新型コロナウイルス感染症流行下における偏見に関する調査を行い, その成果を学術論文にすべく, 執筆中である。また, 共同研究において ESG 投資に関わる心理についての調査を行った。</p> <p>書籍について, 翻訳書籍の一部を担当し, 2023 年度に発刊予定である。加えて, ジェンダーに関する書籍を共著で執筆中である。</p> <p>○学会・社会における活動</p> <p>① 地域政策学会の理事として, 『地域政策研究』の発刊など, 学会運営を行った。</p> <p>② 日本学術振興会特別研究員 RPD 研究交流会「子育てと研究・就職の経験談」講演</p> <p>③ 高崎市人権男女共同参画課 職場における男女共同参画推進研修会 講師 「アンコンシャス・バイアスとは何か: 心理的メカニズムと対処法」</p> <p>④ 『心理学研究』, 『社会心理学研究』, 『実験社会心理学研究』誌の査読を行った。</p>	

2 その他の事項

学内において、学生指導委員として、学生ボランティア活動支援室の運営および周知活動を行った。本年度はボランティアアイデア企画審査会を行い、学生のアイデアを活動につなげるような支援をした。

加えて、基礎教育センターのデータサイエンス部会において、部会長として本学のデータサイエンス教育の推進を検討した。

オープンキャンパスにおいて、講師として「社会心理学から有効な公共広告を考える」と題して模擬講義を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

教育面では、演習授業において、着実な指導を行い、学生の成長を促したい。実験や調査の実施を行う中で、研究リテラシーを養うことを目指す。また、学外でのフィールドワークなども積極的に行いたい。

講義科目では、引き続き、最新の研究知見を取り入れながら、心理学の観点から社会の諸問題を解説するような講義を行う。

研究面では、科学研究費を受給している研究を引き続き進める。2023年度は最終年度となるため、これまで行った実験結果を投稿論文の形にするなど、発信することにも力を入れる。執筆中の書籍を出版できるよう執筆を進める。また、引き続き、共同研究も積極的に行う。

学内では、ボランティア活動支援室の周知活動を続ける。また、新しく「データサイエンス入門」の授業を立ち上げたため、着実に行う。